



表紙の写真は、静岡県三島市方面に行った時のもの。

時節柄、巣作りのつばめが飛び交う自然豊かなところで

何ととっても世界に誇る霊峰富士を仰ぎ見ることができて、何だか幸せな気持ちになりました。

僕の事務所の近所にもつばめの巣があり、つい最近ヒナが孵りました。ヒナの為に せっせせっせと

働くつばめを見ると、オスカー・ワイルドの童話「**幸せの王子（幸福の王子）**」を思い出します。

この童話の中で、王子（像）の優しい心に触れたつばめは王子の願いを聞き入れ、貧しい人々に

王子の像に付いている宝石を届けて飛び回ります。

ついには南のエジプトに旅することをあきらめ、王子の目の代わりにを約束したつばめは、

寒さが増す中、最期に王子の願いが聞けて幸せだったことを告げ最後の力で王子の像に

キスをすると、そのまま力尽きて死んでしまう・・・というなんととも切ないお話。

なるほど。そんな童話に登場するほど、つばめは愛情が深く、ととととと働きます。



幸福の王子
ブロンズ新社 出版
Oscar Wilde (原著)
原 マスミ (編集)

ん〜。つばめに生まれなくて良かったー。(^_^;)

ヘタレな僕はだいたい高いところが怖い。血が怖い。

王子の瞳からサファイアを取り出すなんて失神しちゃうかも。(+_+)



しっかり働いて
オアは南の国へ
行きたいのよね

さて、そんなヘタレな僕を知ってか知らずか（知るかいな）、安倍政権が旗を振る「一億総活躍」の焦点の一つが**働き方改革**です。

労働力人口が減っていくことが予想される日本において、主婦や高齢者等、家庭に埋もれた労働力を社会に引っ張り出したいのです。その障害になるのが長時間労働。

長時間労働の解消は安倍政権が掲げる一億総活躍社会の重要テーマなのです。

すでに達成に向けては労働基準監督署が立ち入り調査する目安を、

残業が月 100 時間から 80 時間に引き下げる施策等がすでに決まっています。

さらに 5 月 4 日、従業員がオフィスを退社してから翌日に出社するまで一定時間を空ける制度を導入した企業に厚生労働省が助成金を出すことが報じられました。いわゆる「**勤務間インターバル制度**」というもので、

前日午後 9 時に退社したら、例えば 1 1 時間を空けて朝 8 時以降に出社しなければならないというもの。

すでに E U（欧州連合）では法律を制定し、E U 加盟国は 1 1 時間のインターバルを義務化しています。

厚生労働省の助成金の具体的な要件はこれからのようですが、就業規則への明記を条件に、早ければ 2017 年度

から最大 100 万円を支給する助成金を用意し、この制度の普及を目指すとしています。



富士山 (Mt.Fuji, Fuji-San) のように日本の言葉が英語となったものは結構あります。

Sake、Sushi、Sukiyaki、Ramen、Karaoke、Bonsai、Samurai、Judo、Sumo、Ekiden 等々。

他にも Kanban（トヨタの看板方式）とか、基本的に日本文化に対するリスペクトを感じる言葉が多いように感じるのですが、その中で、なんと **Karoshi** という言葉があります。

僕の手元のジーニアス英和辞典にもありました。(^_^;)

Karoshi = **過労死** のことです！

これはある意味、日本にとっては不名誉なこと。

労務管理の一端に携わる僕としても、**Karoshi** (過労死) みたいな言葉が英語になってほしくはありません。

どうせなら、次の言葉を英和辞典に追加してほしいものだと思います。

それは、失うことすべてに通じる言葉。

ケニアの故ワンガリ・マータイさんがおっしゃった **Mottainai** (もったいない) です。

働けるのに、働いてなかったり家庭に埋もれている人材がいるとしたら、**Mottainai** !

そして、大切なのは時間をかけることではなく、限りある時間を効率的に使うこと。

そのダラダラ時間が、**Mottainai** !

そのダラダラ時間が、**Mottainai** !

童話の中のつばめのようにムリして働いて体を壊してしまっは誰も幸せにはなりません。

本人にとっても家族にとっても、そして会社にとっても、**Mottainai** ! だけです。



タマゴ料理が大好き
オイラは、幸せの玉子!
タマゴ

